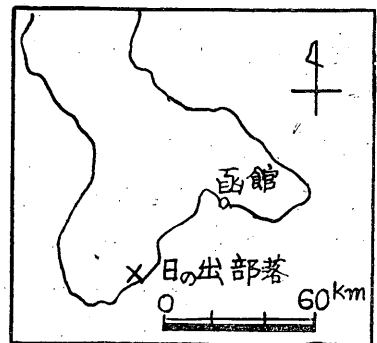


# 北海道松前郡福島字日の出部落の地すべり

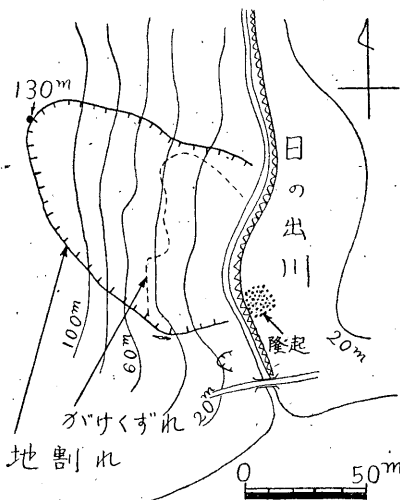
## 函館海洋气象台\*

この地は渡島福島駅から北東 5km 余りの津軽海峡に面し、日の出川という小川の東側に発達した山間の小部落で、海岸から 4~6° の傾斜地である。この日の出川は降水直後に増水するので、過去にしばしば水害に悩まされ、20 年前に川の東側に高さ 2~3m の石積護岸堤防を設けてその防災手段とした。約 40 年前この部落から北東 4km の「タタミ」という地方に地すべりがあつた。それ以来この附近に地すべりはなかつたが、1948 年(昭和 23 年)5 月中旬ごろの夜半にこの部落に弱震程度の地震があり、この地震と前後して海岸から約 40m ほど上流の石積堤防にき裂が生じた。同時にこれに接した民家の敷地(横 10m, 縦 13m)が徐々に隆起し、6 月下旬までにしだいに崩かいし、隆起量は 60cm くらいにまでなつた。この所にあつた民家 3 戸は土台が「へ」の字型に屈曲し、倒かいあるいは取りこわさなければならぬ状態になつた。7 月 1 日に偶然西側の山腹にき裂が発見され、なお時折微動や

第 1 図



第 2 図



川岸のがけくずれなどが起つた。現在までのところ、被害は民家 3 戸が倒れただけで、死傷者はないが、家屋は取りこわしや移転など避難しているものも若干数えられる。この地すべりは部落に面する傾斜 40° 程度の山腹に生じたもので、その面積は約 0.01km<sup>2</sup> であり、あまり広いものではないが地表にき裂を生じている。岩質は古成安山岩で多量の水分を含み、もろいものであり、降雨のある度に地すべりが起りやすい状態におかれている。(第 2 図および写真参照)。

\* 7 月 13 日から 3 日間の調査(竹内, 篠田, 山口, 酒井 による)